

## 第 63 回日本母性衛生学会総会・学術集会

テーマ みんなで語ろう「女性・子ども・家族の健康とSDGs」

会長 遠藤俊子

関西国際大学学長補佐、保健医療学部・教授

開催日程 2022年9月9日(金)・10日(土)

オンデマンド配信 2022年9月23日(金)~10月30日(日)

会場 神戸国際会議場(神戸市中央区港島中町 6-9-1)

参加者数 1,730名

内訳

(名)

参加カテゴリー	早期登録	通常登録	オンデマンド登録	合計
会員	328	528	37	893
非会員	57	386	198	641
学生	196			196
計	581	914	235	1,730

招待 37名(特別講演、教育講演、公開講座等の非会員演者・座長)

内容 会長講演、理事長講演、特別講演(5演題、内2演題海外からWeb講演)  
 教育講演(14題 内共催セミナー4題)、シンポジウム(4題)、交流集会(15題)  
 愛育賞候補演題セッション(10演題)  
 一般演題(269演題;内訳 口演 151題、デジタルポスター 118題)  
 市民公開講座(3題)  
 ランチョンセミナー(4題) イブニングセミナー(1題)  
 展示 39社 広告 15社 デジタル広告 1社

第63回  
日本母性衛生学会総会・学術集会  
The 63rd Annual Meeting of Japan Society of Maternal Health  
2022.9.9(金)~9.10(土) 会場:神戸国際会議場  
会長:遠藤俊子(関西国際大学保健医療学部教授)

みんなで語ろう  
~女性・子ども・家族の健康とSDGs~

特別講演: 女性と環境健康  
Midwifery in uncertain times  
原丈人 Franka Cadée's  
女性を生きる~ドラマからのメッセージ  
田淵久美子

https://site2.convention.co.jp/jsmh63/

第63回日本母性衛生学会総会・学術集会  
The 63rd Annual Meeting of Japan Society of Maternal Health  
2022.9.9(金)~9.10(土) 会場:神戸国際会議場  
会長:遠藤俊子(関西国際大学保健医療学部教授)  
https://site2.convention.co.jp/jsmh63/

市民公開講座 参加費無料

講演① ピアノの夕べ  
日時:9月9日(金)17:30-18:20 【先着330名】  
会場:1Fメインホール  
演者:橋 剛之(ピアニスト)  
生後1ヶ月で小児麻痺のため失明、4歳でピアノを始め、1990年8月生まれの中小的中学校卒業生と特別支援センターに通う音楽家・音楽家として活躍する。2008年に「子供に伝わるクラシック制作委員会」を設立。

講演② 女性を生きる~ドラマからのメッセージ  
日時:9月10日(土)14:20-15:20 【先着170名】  
会場:国際会議室301  
演者:田淵 久美子(脚本家・作家)  
NHK大河ドラマ「風俗」や「〜私たちの戦国〜」等の脚本を手掛ける。女性の生き方を支援する「女性」の普及、NHK文化センター-脚本講座の講師を務める。

講演③ 女性のフレイル予防:あなたはいつから始まりますか?  
日時:9月10日(土)15:30-16:30 【先着170名】  
会場:国際会議室301  
演者:村田 伸 京都編大 健康科学部  
11年間、理学療法士として勤務し、大学で勤務を転じ、大学で勤務を転じ、フレイル予防として実践された方法を講演では紹介する。

開催場所:神戸国際会議場  
申し込み:QRコード・URLから申し込み、または画面の用紙をFAX  
申し込みURL: <https://peats.com/event/329806>

※申込される方は、当日はご自身で講演と後援確認を行った上で参加ください。会場では入場券をお渡し致しません。  
 ※FAXでの申し込みは9月12日(月)まで、注意事項もご確認ください。  
 事務局:関のむすせ 関西国際大学 保健医療学部 兵庫県三木市志染町山1-18  
 事務局 TEL:078-326-3760  
 申し込みFAX番号:0784-84-3262(関西国際大学 社会連携課)

【共催】 関西国際大学  
 【後援】 兵庫県・神戸市・三木市・兵庫県母性衛生学会  
 兵庫県産科婦人科学会・兵庫県看護協会・兵庫県助産師会

## 第 63 回学術集会を振り返って

第 63 回日本母性衛生学会総会・学術集会長 遠藤俊子

第 63 回日本母性衛生学会学術集会は、2022 年 9 月 9 日(金)、10 日(土)に神戸国際会議場において、感染対策を実施した上での 3 年ぶりに対面方式で開催した。幸いにも心配した連続台風到来の合間で無事 2 日間の開催ができた。3 年ぶりに多くの仲間にお会いして、公私にわたる懇親を深めながら、新たな時代の人々への健康支援と学会のあり方を討議できた学会であった。

メインテーマは、「みんなで語ろう～女性・子ども・家族の健康と SDG s～」として、この 3 年間の Covid-19 の影響を受けた日常では苦渋の選択をしながら、妊産婦さんや子ども家族へのケアに邁進した日々であったことを想起し、それでも足りない支援のわだかまりが一気に語られた。語ることで、働き続けること、ケアすることへのエネルギーが取り戻せ、さらにはニューノーマルへと移行するケアの議論ができたことが学会ならではの醍醐味であった。

本学会は、1959(昭和 34)年に第 1 回が開催された。その後、1960 (昭和 40) 年には母子保健法が施行され、周産期医療の改善は大きな成果を出した。一方、1990 年からの少子化が課題となり、2001(平成 13)には「健やか親子 21」が始まり、続く「第 2 次健やか親子 21」では妊娠期から子育て期にわたる切れ目のない支援が国民運動として展開されている。2016 (平成 28)年には、子育て世代包括支援センター(母子健康包括支援センター)が設置され、2020 (令和 2) 年末には全国展開されてきている。このようにわが国は、戦後 77 年の歴史のなかで母子保健の動向は大きく様変わりした。年間出生数が 260 万人から 80 万人への変化こそが、SDG s としてわが国の出産や子育てを考えていく重要な認識であろう。

本学会の裏テーマは、上記の変化を捉え、「昭和は遠くなりけり」であった。時代の変化を真摯にとらえ、昭和を支えて下さった先達への感謝と、これからの時代を担う後輩の皆様が創っていく母子への支援をバトンタッチする対面での学会と位置づけ、今後の日本母性衛生学会の未来が見えてくるようなプログラム構成とした。プログラム委員の総意のもとで作成した。「誰一人取り残さない女性・子ども・家族へのまなざしと同僚・仲間への感謝」を感じていただければ委員一同の願いが果たせたと思う。

With コロナ時代として、対面と Web の組み合わせが難しく、参加者の動向予測が難しかった。開催経費に関しては第 62 回以降マイナス決算になっており、第 63 回の大幅なマイナス決算は、学会運営上多大なご心配と損益を出したことをお詫び申し上げる次第である。

## 第 63 回日本母性衛生学会学術集会 プログラム概要

【会著講演】 Action Research の連続—昭和から令和の周産期医療での教育・研究・実践

【理事長講演】 FHRM 所見と新生児予後の乖離例を考察する

【特別講演】

- 1 大学教育の転換—コロナ禍を経て新たな可能性と挑戦
- 2 昭和から平成、令和の周産期医療と今後への期待
- 3 ICM の 100 年、不確実性とシンポの歴史
- 4 21 世紀国富論/医療と公益
- 5 健康と SDGs-パンデミックの時代に母と子の<いのち>を守る意味



【教育講演】

- 1 多胎の妊娠期管理
- 2 “子ども学”のすすめ~子どもの貧困を考える
- 3 日本における妊婦新型コロナウイルス感染の現状
- 4 慢性歯性感染症と早産・低出生児出産
- 5 心が通う妊婦健診とするために
- 6 女性の健康向上を阻む社会的圧力~ビル承認からわが国の SRHR の今を考える~
- 7 産科診療ガイドライン 2020 を踏まえた母体救急とその対応
- 8 母子の健康からみた HPV ワクチンの重要性
- 9 SDGs 目標 3・5・8 を達成するために必要な看護の力
- 10 生殖医療の過去・現在・未来
- 11 課題を抱える妊産婦支援の実際と今後の取り組み
- 12 より良い子育てを見据えた産科医療をめざして
- 13 看護職による周産期メンタルヘルスケア update
- 14 実践 参加超音波検査



## 【シンポジウム】

- 1 災害と周産期医療
- 2 With コロナ期の母子の健康を守る
- 3 助産師として活躍の場はどこまで広がるか
- 4 母と子の地域包括支援システムと助産師



## 【交流集会】

- 1 立ち合い出産
- 2 MBAの学生と学ぶ「助産管理学」経営学の視点から神戸大学大学院助産コースの特徴ある「助産管理学」をのぞいてみませんか
- 3 授乳への支援
- 4 アドバンス助産師による実践
- 5 生と性の教育—いのちの大切さをどう伝えるか
- 6 日本の文化における妊娠・出産・育児
- 7 周産期におけるDV支援～助産師にできること～
- 8 周産期における Family Centered Care
- 9 強くなろう！周産期の糖代謝異常の考え方とケア
- 10 妊娠期から産後期の継続した助産ケアを考える
- 11 妊娠高血圧症候群重症化予防ケア
- 12 産後メンタルヘルスケアのグッドプラクティスを探そう
- 13 薬局におけるICTを活用した多職種連携プレコンセプションの可能性
- 14 助産学実習の在り方考える
- 15 呼吸法での自然分娩

## 【市民公開講座】

- 1 ピアノの夕べ
- 2 女を生きる—ドラマからのメッセージ
- 3 女性のフレイル予防：あなたはいつから始めますか？

